

令和 元年 5 月 20 日 作成 大塚 崇光

令和 元年 5 月 21 日 修正 原田 寛之 全 炳俊

令和 元年 5 月 23 日 修正 鷺尾 方一

日本物理学会第 74 回年次大会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会総会) 議事録

日時:2019 年 3 月 15 日 (金) 17:45 – 20:00

会場:九州大学 伊都キャンパス G107 会場

出席者 (順不同・敬称略):27 名

羽島 良一, 鷺尾 方一, 栗木 雅夫, 柏木 茂, 川瀬 啓悟, 原田 貴之, 坂上 和之, 松葉 俊哉, 井上 峻介, 住友 洋介, 平 義隆, 菅 晃一, 保坂 将人, 伊藤 清一, 岩下 芳久, 本田 洋介, 加藤 政博, 紀井 俊輝, 内藤 大地, 神門 正城, 不破 康裕, 宮本 篤, 近藤 康太郎, 全 炳俊, 藤本 将輝, 酒井 泰雄, 大塚 崇光

司会:全 炳俊

書記:大塚 崇光, 藤本 将輝

配布資料

2019S-1: 前回議事録

2019S-2: 日本物理学会若手奨励賞について

2019S-3: ビーム物理研究会の会則について

議事内容

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域
 - 2-2. ビーム物理研究会関連
 - 2-3. 日本加速器学会関連
3. その他
 - 3-1. ビーム物理研究会 会則の見直し (羽島 良一会長 QST)
 - 3-2. 次回の総会・世話人会

1. 前回議事録確認 (資料 2019S-1)

2018 年 8 月 10 日に開催された第 15 回日本加速器学会年会におけるビーム物理研究会インフォーマルミーティング (ビーム物理研究会世話人会) の議事録 (配布資料 2019S-1) について内容確認が行われた。事前にメールにて配布しており, 時間的な制約から内容の読み合わせは省略した。意見・コメントは無く議事録として承認された。

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム物理領域関連

[大会関連]

一般講演について

一般講演の件数および内訳についての報告があった。第 73 回年次大会 (2018 年春) の講演件数は 125 件 (合同分を除くと 107 件) であったが, 第 74 回年次大会 (2019 年春) の講演件数は 171 件 (合同分を除くと 87 件) であった。その内, 主催シンポジウムが 2 件で 19 講演, 他領域主催合同シンポジウムが 6 件で 51 講演, 領域横断シンポジウムが 1 件で 9 講演, 合同招待講演が 1 件で 1 講演であった。

今年次大会においては羽島 良一会長 (QST) から発表申し込みの依頼をメーリングリストにて送信した。

一般講演件数の推移について

今年次大会 (2019 年春) の講演数を含む過去 13 年間における日本物理学会年次大会での一般講演件数の推移についての報告があった。合同分を除いた主催分の講演件数の微減は, 今年次大会の領域 2 との合同セッションが領域 2 主催であったことが原因の一つといえる。このことを考慮すると講演件数は増加傾向にある。

他領域との比較 (今大会)

今年次大会 (2019 年春) の講演件数の他領域との比較に関する報告があった。合同による増分を除いた比較では領域 13 をわずかに超える講演件数となった。ポスター発表を除く領域 6 及び領域 7, 領域 10 と講演件数が同じ程度であった。

今大会では「物理と社会」の領域が開催されていないが, 日本物理学会が主催するシンポジウムが開催される場合のみプログラムに記載されると思われる。

所属機関別内訳

今年次大会 (2019 年春) の講演者所属機関別内訳に関して報告があった。広島大学が最も多い所属機関であり, 学生発表件数が増加につながった。領域 2 主催の合同セッション分を除いているため, QST の件数が 2 件となっている。

他領域との合同セッション

今年次大会 (2019 年春) の他領域との合同セッションに関して報告があった。「J-PARC と原子核素粒子実験」は「大強度加速器・測定器の技術」に名称変更されたが例年通りの発表件数であった。「レーザー・プラズマ加速」は大阪大学のレーザー加速に関する発表がビーム物理領域への申し込みであったため共催分が減少している。「イオントラップ・非中性プラズマ・レーザー冷却」は共催側に 2 件移動し減少した。

招待講演・チュートリアル講演

今年次大会 (2019 年春) の招待企画・チュートリアル講演に関して報告があった。若手奨励賞受賞記念企画講演以外に招待講演 (領域 2 主催) 及び企画講演 (素粒子実験領域主催) がそれぞれ 1 件ずつであった。

最近の年次大会においてビーム物理領域では開催していないが、企画講演は比較的採択されやすいため、羽島 良一会長 (QST) から自薦他薦問わず積極的に申し込みをして欲しいと依頼があった。

シンポジウム講演

今年次大会 (2019 年春) のシンポジウム講演に関して報告があった。前年次大会 (2018 年春) では主催 2 件、共催 1 件であったが、今年次大会 (2019 年春) では主催 2 件、共催 6 件であった。今後も継続して主催 2 件以上のシンポジウムが開催できるよう、来春の年次大会への提案に協力して欲しいとの依頼があった。

若手奨励賞受賞記念講演

今年次大会 (2019 年春) の若手奨励賞受賞記念講演に関して報告があった。前年次大会 (2018 年春、受賞者 1 名) 同様、今年次大会においても 1 名 (松葉 俊哉氏 広島大学) が受賞し記念講演を開催したことが報告された。講演資料は後日公開される予定である。

博士論文も審査対象となるため、研究会メーリングリストまたはホームページを参照の上積極的に応募して欲しい。応募期限は例年通り 7 月下旬とすることを確認した。

来年度大会までのスケジュール

秋季大会までのスケジュールが確認された。「素核宇」は 2019 年 9 月 17 日から 20 日まで山形大学 (小白川キャンパス) で開催され、「物性」が 9 月 10 日から 13 日まで岐阜大学で開催される。シンポジウム、招待・企画講演などの申し込み期間は未定、一般講演の申し込み期間は 4 月 26 日から 5 月 23 日である。秋季大会ではビーム物理領域の一般講演は開催されないが、シンポジウム等の他領域との合同開催は可能であると報告された。提案がある場合には、運営委員 (大塚 崇光氏 宇都宮大学) まで連絡してほしい。

次回年次大会は 2020 年 3 月 16 日から 19 日まで名古屋大学 (東山キャンパス) で開

催される。

日本物理学会 学生優秀発表賞の登録状況

今年次大会 (2019 年春) から開始した学生優秀発表賞に関して報告があった。今回の応募方法は講演申込み一週間前までに発表者本人または指導教官から領域代表に申告する形式としたが、Web 申込みの際にも応募することができることが判明したため、Web 登録のみでも受け付けることとした。合計 24 名 (一部キャンセルあり) の応募があり、審査員 15 名を選任し審査を行なっている。

今回予稿集を提出していない対象者がいたため、次回以降は予稿提出を必須とすることとなった。次回大会までに実施要領に Web 登録のみの受付であること、予稿提出が必須であることを募集・実施要項に書き加え理事会で承認を得ることとなった。

日本物理学会 奨励賞の募集要項について (資料 2019S-2)

日本物理学会奨励賞の募集要項の改正に関して羽島 良一会長 (QST) より資料 (2019S-1) を用いて説明があった。ビーム物理領域では 2005 年から対象者を募集し表彰しているが、受賞枠 2 名に対し平均 1 名の受賞者である。応募資格の年齢制限や、趣旨及び選考基準に関して見直す方向で議論され、後日羽島 良一会長 (QST) より改正案がメールにて回覧されることとなった。意見が集約されたのち 5 月の理事会に提出し承認を得る予定である。提出者は鷺尾 方一 次期代表 (早大) である。

[領域運営関連]

執行部と事務局の確認

ビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の現執行部の確認が行われた。また 2019 年 4 月からのビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の執行部体制は下記の通りとなることが確認された。

<ビーム物理研究会>

会長: 鷺尾 方一 (早大)

副会長: は栗木 雅夫 (広大), 羽島 良一 (QST)

<日本物理学会ビーム物理領域>

代表: 鷺尾 方一 (早大)

副代表: 栗木 雅夫 (広大)

<事務局>

早稲田大学理工学部

東京都新宿区大久保3-4-1 55 号館 S 棟 3 階

次期領域運営委員について

領域運営委員の大塚 崇光氏 (宇大) の後任として、大阪大学の酒井 泰雄氏が推薦され承認された。任期は 2019 年 10 月から 2020 年 9 月までの 1 年間となる。

2-2. ビーム物理研究会関連

[研究会関連]

ビーム物理研究会・若手の会 2018 の報告

ビーム物理研究会・若手の会 2018 は、量子科学技術研究開発機構の主催により 2018 年 11 月 20 日から 22 日まで開催された。羽島 良一会長 (QST) より研究会報告が加速器学会誌に掲載される予定であることが報告された。参加者は 56 名 (うち学生は 25 名) であり、主催者の放射線医学総合研究所が予算を確保してくれたことにより、学生に旅費が支給できたため若手の参加者増につながったことが報告された。今後も学生への旅費補助が継続されるように努力していくことが確認された。

来年度の研究会・若手の会について

ビーム物理研究会・若手の会 2019 に関して菅 晃一氏 (阪大産研) より説明があった。次回のビーム物理研究会・若手の会は阪大産研にて 2019 年 11 月下旬に開催する予定であること、若手の旅費は村田学術振興財団に申請し獲得する考えであることが説明された。

[研究会運営関連]

若手の会の運営報告 (原田 寛之氏 JAEA/J-PARC より)

ビーム物理研究会・若手の会の 1 年間の活動報告として、立ち上げ及び組織化の流れ、現状や活動報告に関して原田 寛之氏 (JAEA/J-PARC) より別資料を用いた説明があった。

会則やメーリングリスト等の運営体制を確立後、昨年 5 月半ば頃より会員の募集を開始した。加速器学会誌に若手の会に関して寄稿するなど会員増加に向けた努力を続けている。若手の会発足後、会員は増加傾向にあるが引き続き関係者への勧誘を続けてほしいとの依頼があった。

幹事会はビーム物理領域やビーム物理研究会と密接に関わった運営を行うため、顧問を設置し下記の体制で運営している。

会長: 原田 寛之 (JAEA/J-PARC)

副会長: 坂上 和之 (東大), 井上 峻介 (京大化研)

幹事: 菅 晃一 (阪大産研), 近藤 康太郎 (QST)

公報: 山本 尚人 (KEK), 今 亮 (QST)

オブザーバー: 全 炳俊 (京大エネ研), 大塚 崇光 (宇大), 藤本 将輝 (分子研)

顧問: 鷲尾 方一 (早大), 羽島 良一 (QST), 栗木 雅夫 (広大)

若手の会の永続的な運営に向け、幹事会のオブザーバーを募集し、応募してきた金田 健

一氏 (株式会社 CSIS), 内藤 大地氏 (KEK) を運営体制に追加し, 2019 年 4 月より新体制となることが報告され, 承認された.

若手研究者及び学生にビーム物理の魅力をアピールし, 求められている研究者像を明確化することを目標に公募採用の案内を Web ページに掲載し, メーリングリストにおいても配信を行っていることが報告された. また研究会案内もメーリングリストで配信しているので配信したい内容がある方は連絡してほしいとの依頼があった.

日本学術会議若手アカデミー分科会/若手ネットワークへの参加状況に関して報告があった. これまでに若手科学者サミットが 2 回開催されており, 全回出席しポスター発表を行っているとの報告があった. 口頭発表の部では, 優秀な発表に対し若手アカデミー賞が設立されたので, 今後は本会からも口頭発表者を推薦していくことを検討する.

若手の会に関するアニュアルレポート 2017 を提出した. 来年度も 4 月にアニュアルレポート 2018 を提出予定であり現在準備中である.

若手の会 2018 での若手発表賞について (原田 寛之氏 JAEA/J-PARC より)

11 月に開催したビーム物理研究会若手の会 2018 における若手発表賞について報告があった. 対象者は学生もしくは任期付研究者であり, 今回の対象者は 11 名であった.

審査員 (7 名) による 10 段階評価で審査し 4 名 (学生 4 名) を選出し賞状及び副賞を授与した.

若手の会 2019 も同様の形式で実施する予定であることが説明された.

今後の企画に関して (原田 寛之氏 JAEA/J-PARC より)

研究者のキャリアパスについて年長者にインタビューする企画を行いと考えているので協力してほしいとの依頼があった.

キャリアセミナー形式で若手や中堅, 博士取得直後の研究者にもインタビューを行うとより良いという意見が出た.

2-3. 日本加速器学会関連

第 16 回日本加速器学会年会のお知らせ

会期: 2019 年 7 月 31 日 (水) ~ 8 月 3 日 (土)

共催: 京大エネ研, 京大化研, QST 関西研

会場: 京大吉田キャンパス (百周年時計台記念館 / 国際科学イノベーション棟)

備考: 会期 2 日目にインフォーマルミーティングとしてビーム物理研究会の拡大幹事会を開催する予定

その他

3-1. ビーム物理研究会 会則見直し (羽島 良一会長 QST, 資料 2019S-3)

羽島 良一会長 (QST) より資料 (2019S-3) に関して兼ねてより検討している会則の見直しについての説明がなされた。

会則 総会 第三条に関して、会の運営は年に 1 回開催する総会 (物理学会年次大会 領域インフォーマルミーティングを兼ねる) によって基本方針を決定すること、会長が総会の招集及びその通知を行うこと、総会欠席者の意見の取り扱い、議事の可否に関して改正案が示された。

会則 幹事会 第五条に関して、従来の世話人会は解散し新たに幹事会を設置すること、幹事会は総会で決定された基本方針に基づいて本会の運営を行うこととする改正案が示された。幹事会は会長、副会長、前会長、前副会長に加えて会長が指名し総会で承認を受けた若干名から構成する案が示され、本案が日本物理学会の規定に矛盾しないことが説明された。日頃領域 Web ページを管理している山本 尚人氏 (KEK) を幹事会構成員に含める案が提案され承認された。

また、日本加速器学会年会で開かれるインフォーマルミーティング (拡大幹事会) の決定権に関して議論がなされ、日本物理学会の会則に矛盾がないよう運用することとなった。

最終的な改正案は後日羽島 良一会長 (QST) よりメールにて回覧後、施行される予定である。

3-2.国際加速器スクールについて (栗木 雅夫氏 広大)

2018 年 11 月に広島で開催された国際加速器スクールに関して栗木 雅夫氏 (広大) から報告がなされた。学生及び若手研究者 35 名が参加し一週間のスクールを開催した。2019 年も開催を計画しているため若手研究者や学生は積極的に参加してほしいとの依頼があった。